

世界法年報総目次

【第5号まではニューズレターの形式であったが、世界法研究会が世界法学会に発展的に解消したのに伴い第6号から学会誌『世界法年報』として刊行しているため、ここでは6号～20号について掲載した。[]内の数字は掲載頁数。】

世界法年報6号(1986年10月)

論説

- 香西茂 平和維持活動の「ガイドライン」について [1-14]
最上敏樹 国際機構と国際社会の組織化---米国のユネスコ脱退を中心的素材として [15-28]

世界法年報7号(1987年10月)

論説

- 宮崎繁樹 国際人道法の世界法的側面 [1-16]
浅田正彦 国際法における新兵器の取り扱い [17-34]

ノート

- 高野雄一 世界法研究会---世界法学会発足の頃 [35-38]
小谷鶴次 世界法学会の思い出 [39-44]

世界法年報8号(1988年10月)

論説

- 斎藤恵彦 世界法概念について---田中、恒藤両博士の概念をめぐって
Ernst Zitelmann “Die Möglichkeit eines Weltrechts”(1888) 100周年を記念して [1-16]

- 真山 全 海上経済戦における中立法規の適用について [17-32]

特別企画

- 田畑茂二郎先生に聞く---世界法の理念について (聞き手 深津栄一) [33-44]

世界法年報9号(1989年10月)

特集:「明日の国連」と日本

総論

- 筒井若水 戦後日本と国際連合 [1-6]

論説

- 小寺 彰 平和維持と国際連合のあり方---『新たなビジョン:明日の国連』
を手がかりにして [7-20]

- 位田隆一 経済・社会協力と国連機構 [21-36]

ノート

- 波多野里望 国連の平和維持活動と日本 [37-44]
緒方貞子 『新たなビジョン:明日の国連』について [45-52]

世界法年報10号(1990年10月)【世界法研究会発足25周年記念号】

香西茂 ごあいさつ

共通テーマ:国際法の新領域と取り組む国際機構

論説

- 功刀達朗 国連の諸活動と国家主権 [2-15]

- 平 覚 国際機構の特権免除と国家主権 [16-29]
黒沢 満 軍縮と国際機構---軍縮条約の履行を確保するための機構・機関 [30-42]
岩間 徹 地球気候変動と国際機構 [43-60]

世界法年報11号(1991年10月)

論説

- 渡部茂己 国際連合総会の意思決定手続---諸国際機構における動向との比較を中心に [1-14]
大泉敬子 イラク・クウェート紛争と国際連合の平和保障機能 [15-27]
シンポジウム：地域統合の現状と将来
横田洋三 問題提起 [28-33]
大谷良雄 EC市場統合の法的性格と現段階 [34-38]
大島美穂 欧州秩序再建と下位地域---東欧・北欧における地域協力の今日的意味 [39-45]
中村 道 米州機構の現状と課題 [46-52]
則武輝幸 アフリカ統一機構を中心とするアフリカ [53-59]
渡辺昭夫 アジア・太平洋地域の場合 [60-67]

世界法年報12号(1992年10月)

高林秀雄 ごあいさつ

論説

- 西海真樹 開発の国際法における「規範の多重性」論 [2-16]
高島忠義 ロメ協力における環境問題 [17-31]
富岡 仁 海洋環境の国際的保護に関する法制度 [32-45]
磯崎博司 地球生命系の保全に関する法制度 [46-61]

世界法年報13号(1993年10月)

高林秀雄 横田喜三郎先生の逝去を悼む

論説

- 川崎 孝子 リージョナルな共通利益と領域管轄権 [2-14]
川上壮一郎 内陸国と海洋法---海洋資源配分における平等性 [15-27]
山形英郎 国際紛争解決システムにおける司法的解決の意義 [28-44]
牧田幸人 国際司法裁判所の役割 [45-57]

世界法年報14号(1994年12月)

論説

- 神余隆博 国連の普遍化と総会の役割 [1-22]
筒井若水 集団安全保障と安全保障理事会の役割 [23-36]
村上正直 人権保証の国際化と国際連合---個人の人権問題の取扱いを中心として [37-57]

講演

- 加藤俊作 世界連邦運動から見た国際連合 [58-66]
田畑茂二郎 世界政府論の提起するもの [67-78]

世界法年報15号(1996年3月)

論説

- 田中則夫 国連海洋法条約第11部実施協定の採択 [1-29]
長田祐卓 南極制度における人類利益と機能主義 [30-48]
岡田 泉 「人道に対する罪」処罰の今日的展開 ---国内立法および国内裁判に
着目して [49-70]
小笠原一郎 国際法委員会の国際刑事裁判所規程について---管轄権の調整の問
題を中心に [71-96]

世界法年報16号(1997年3月)

竹本正幸 ごあいさつ

論説

- 山影 進 アジア太平洋経済協力の制度化にみられる特徴---ASEANとAPEC
の組織原理と運営原則を中心に [2-33]
阿部浩己 地域人権機構とアジア太平洋 [34-56]
Suthy Prasartset Recent Global Trends in Regionalism and APEC [57-83]
Paik Jin-Hyun Regional Security System in the Asia Pacific [84-95]

世界法年報17号(1998年3月)

基調講演

- 小田 滋 国際海洋法秩序の50年 [1-25]

論説

- 吉井 淳 直線基線の最近の傾向---日本沿岸の直線基線との関連で [26-43]
村上曆造 接続水域 [44-62]
井口武夫 排他的経済水域と大陸棚のレジーム形成とその相関関係についての考察
[63-101]
古賀 衛 紛争解決---海洋法の手続法的発展 [102-128]

世界法年報18号(1999年3月)

論説

- 浅田正彦 NPT・IAEA体制の新展開---保障措置強化策を中心に [1-36]
辻 優 核実験の国際的規制の展開 [37-65]
藤田久一 核兵器をめぐる法と戦略の交錯 [66-87]

世界法年報19号(2000年2月)

栗林 忠男 ごあいさつ

論説

全体テーマ：地球環境保護の法制度---その現状と課題

- 村瀬信也 国際環境レジームの法的側面---条約義務の履行確保 [2-22]
田村政美 国連気候変動枠組条約制度の発展と締約国会議 [23-46]
池島大策 南極における環境保護の制度---内部的調整と外部的調整の展開 [47-71]
臼杵知史 地球環境保護条約における履行確保の制度---オゾン層保護議定書の
「不遵守手続」を中心に [72-97]
河野真理子 ガブチコヴォ・ナジュマロシュ計画事件判決の国際法における意義
[98-126]

世界法年報20号(2000年1月)

栗林 忠男 竹本正幸先生の逝去を悼む

論説

統一テーマ：「20世紀の国際法と国際法学」

- 柳原正治 いわゆる「無差別戦争観」と戦争の違法化---カール・シュミットの学説を手がかりとして [3-29]
- 森田幸一 国際紛争の平和的処理と強制的処理との関係---H・ケルゼンの学説を中心に [30-57]
- 大森正仁 国際責任法理論と戦争法・武力紛争法---ディオニシオ・アンツィロッチの貢献 [58-76]
- 西海真樹 「国家の二重機能」と現代国際法---ジョルジュ・セルの法思想を素材として [77-106]
- 小森光夫 ハーシュ・ラウターパクトが残したもの---国際法の存在判断における意思と理由の文脈から [107-130]
- 松田竹男 ソビエト国際法の挑戦と挫折---G・トゥンキンの学説を手掛かりに [131-150]
- 小畑 郁 世界公共圏の構築としての「国際法の重層化」---後期ウォルフガング・フリードマンの法プロジェクト [151-176]